

第3次中期計画

令和6年度～令和10年度

公益社団法人 阿南市シルバー人材センター

はじめに

阿南市シルバー人材センターは、小規模阿南市シルバー人材センターとして昭和61年11月に発足し、平成23年3月の公益社団化を経て、今日まで着実に歩みを進め、令和6年に設立38年目を迎えます。

この間、会員の努力はもとより、阿南市や関係諸団体をはじめ、多くのお客様や市民の皆様の絶大なご支援をいただきながら、堅実な発展を遂げてまいりましたことに対し、心よりお礼申し上げます。

さて、第2次中期計画の最終年度となる令和5年度の事業実績は312,834千円（派遣契約を含む）、会員数は700人で、数値目標と比較いたしますと、事業実績では10.9%、会員数では30%のそれぞれ減少となりました。

このことは、令和2年から大流行した新型コロナウイルス感染症による経済活動の停滞が実績の減少に、また、定年延長や70歳までの就業確保措置が会員数の減少にそれぞれ影響したものと考えております。

今後、大幅な人口減少が見込まれ、社会保障費の膨張と労働力人口の減少が、日本経済に与える影響が懸念されております。わが国の成長率を維持するためには、高齢者の就業率を高めることが重要であり、高齢者の就業機会の拡大を図り、併せて活力ある地域社会づくりに寄与することを目的としたシルバー人材センターの果たすべき役割は、ますます重要になってきます。

これまでの歴史の中で積み重ねてこられた先人の苦勞と功績を礎に、「自主・自立、共働・共助」を基本理念とし、さらに新たな一步を踏み出すため、第3次中期計画を策定するものであります。現状と課題を見極め、到達すべき方策を明確にし、会員、役職員一丸となって、「魅力あるセンター」づくりを目指してなお一層努力してまいり所存であります。今後とも温かいご支援をいただきますようお願い申し上げます。

令和6年3月

公益社団法人 阿南市シルバー人材センター
理事長 河井敏之

目次

I	中期計画策定にあたって	P 3
	1 計画策定の趣旨	
	2 計画の考え方	
II	目標年度	P 4
III	中期計画の内容	P 4
	1 会員の増強	P 5
	2 就業機会の拡大	P 6
	3 安全で適正な就業の推進	P 7
	4 運営基盤の強化	P 8
IV	計画の進行管理・評価（マネジメントサイクル）	P 9
V	資料	
	1 高齢者人口と会員数の推移	P 10
	2 会員年齢別構成比表	P 11
	3 会員入会動機	P 12
	4 請負事業の契約金額と延人員の推移	P 13
	5 派遣事業の契約金額と延人員の推移	P 14
	6 総務・財政委員会名簿	P 15
	7 沿革	P 16

I 中期計画の策定にあたって

1 計画策定の趣旨

阿南市シルバー人材センターは、平成19年度に第1次となる中・長期目標を策定し指標としてきたが、百年に一度の経済危機などの影響により、予想外の事業実績となった。そこで厳しい社会経済状況に対処するため、平成21年度と26年度に中間見直しを実施した。

第1次計画の成果と課題、目標値の達成状況等の検証を行い、また、企業の定年延長や再雇用制度など、センターを取り巻く環境の変化を考慮し、令和元年度に「第2次中期計画」を策定し、事業運営を進めてきたが、令和5年度が最終年度となることから、令和6年度から令和10年度を計画年度とする「第3次中期計画」を策定する。次期計画は、経済の変動に柔軟に対処し、法改正やデジタル化の促進を通じて、新しい働き方や雇用の柔軟性を積極的に取り入れ、地域社会において安定的で有益な存在であるための基盤を築くことを目指す。

2 計画の考え方

組織委員会、就業開拓・普及啓発委員会、安全・適正就業委員会、総務・財政委員会でシルバー人材センターを取り巻く環境の変化をしっかりと認識した上で、現状分析、課題、課題解決に向けた方策を定め目標の実現を図る。

- ① 現 状
- ② 課 題
- ③ 目標設定
- ④ 目標達成の方策

Ⅱ 目標年度

阿南市シルバー人材センターにおける中期目標年度を次のとおり設定する。

計画期間は、令和6年度から令和10年度の5年間とする。

Ⅲ 中期計画の内容

中期計画における基本目標となる項目は、次のとおりである。

- 1 会員の増強
- 2 就業機会の拡大
- 3 安全で適正な就業の推進
- 4 運営基盤の強化



1

会員の増強

(1) 現状

継続雇用制度が進む中、センターへ入会する高年齢者は、更に高齢化が進むと予想される。また、令和5年度の60歳以上の人口の占める会員数の割合を示す粗入会率は、2.52%（※令和4年度数値：全国平均1.6%、徳島県平均1.6%）となっているが、会員数は、退会者数が入会者数より上回り、令和元年度と比べ151人減の700人となっている。

会員数、粗入会率（阿南市の60歳以上の人口に占めるシルバー会員の割合）、入退会数の推移

年度	会員数（人）	粗入会率（%）	入会者数（人）	退会者数（人）	入退会差（人）
令和元年度	851	3.00	159	119	40
令和2年度	835	2.95	118	134	-16
令和3年度	894	3.18	179	120	59
令和4年度	843	3.02	70	121	-51
令和5年度	700	2.52	89	232	-143

(2) 課題

粗入会率は全国平均・徳島県平均より2倍程度と高いことから、年度毎の入退会差が減とまらないよう「退会者数を極限まで減らす取組み（退会防止策）」が重要課題となるが、長期的な課題においては、新規入会者を増やすことが併せて重要になってくると思われる。

(3) 目標設定

〈目標〉 入退会差+10人以上（年度毎）

(4) 目標達成の方策

1. 退会防止策：全国的に会員の高齢化が進む中、退会の理由として「病気（本人）」「死亡」「加齢」によるものがあるが、一方で、「希望する仕事なし」「就業機会なし」の理由に該当する未就業会員を対象に、退会の防止につながる有効な機会を積極的に展開する。
 - ①就業相談日を設定し、希望する仕事の再調査や就業支援、就業体験等を幅広く実施し、退会防止に努める。
 - ②高齢（80歳を超える）の未就業会員については、年齢や体力・能力に配慮した形で仕事を選定し、就業支援、就業の提供を行う。
2. 入会支援策：入会説明会の案内を引続き行い、入会が魅力的になるイベントや講習会等の開催を積極的に行う。

2

就業機会の拡大

(1) 現状

会員の平均年齢は、令和4年度末現在72.8歳で10年前と比較すると2.5歳上昇している。中でも75歳以上が35.8%を占めており会員の高齢化が進行している。

こうした状況下に加え、令和2年度からのコロナウイルス拡大による影響で契約実績は減少したが、令和4年度より回復傾向にある。

年度	登録会員数 (人)		受注件数 (件)			就業延人員 (人日)			契約金額 (千円)		
		うち派遣	うち請負	うち派遣		うち請負	うち派遣		うち請負	うち派遣	
令和元年度	851	337	4,210	4,175	35	64,676	59,466	5,210	332,297	303,644	28,653
令和2年度	835	330	3,833	3,807	26	56,925	52,364	4,561	294,805	271,536	23,269
令和3年度	894	353	3,698	3,674	24	54,198	49,291	4,907	284,972	259,438	25,534
令和4年度	843	364	3,649	3,625	24	53,567	48,254	5,313	297,366	271,522	25,844
令和5年度	700	365	3,668	3,651	17	50,876	46,073	4,803	312,834	287,850	24,984

(2) 課題

令和7年度より65歳までの雇用確保が義務付けされることにより、会員の高齢化がさらに進行することが懸念される中、特に剪定・除草・農作業等の屋外作業における人材不足が深刻である。こうした分野の会員の育成と高齢会員のニーズにマッチした就業機会の確保に努める。

またフリーランス法の制定により契約方法が変更されることで、会員のデジタル化を推進していく。

(3) 目標設定

契約金額	<u>320,000千円</u>	就業延人員	<u>55,000人日</u>
・請負	<u>295,000千円</u>	・請負	<u>50,000人日</u>
・派遣	<u>25,000千円</u>	・派遣	<u>5,000人日</u>

(4) 目標達成の方策

- ①不足分野の会員を育成するため技能、技術講習会を開催する。
- ②高齢会員に対する就業可能な分野の就業開拓を推進する。
- ③デジタル化の推進にともない会員の状況を把握し、講習会を開催していく。

3 安全で適正な就業の推進

(1) 現状

安全で適正な就業は、シルバー事業における最重要事項と捉え、安全・適正就業委員会を中心に、事故分析、対策等を協議し、安全意識の啓発や周知の徹底を図り、安全就業に努めているが、事故件数自体は減少傾向にあるものの、ちょっとした不注意による傷害事故・賠償事故が毎年発生している。

(2) 課題

安全就業については、「安全がすべてに優先する」を念頭に事故「0」を目指し、会員意識の高揚と啓発を強化する必要がある。

また、今後、会員の高齢化に伴い、転倒事故や交通事故等の発生も懸念され、更に猛暑による熱中症の予防が課題である。

(3) 目標設定

〈数値目標〉 傷害・賠償事故ゼロ

(4) 目標達成の方策

①安全パトロールの実施

安全・適正就業委員会による安全パトロールの実施を強化し、作業別安全就業基準の遵守を徹底するため、7月の安全就業強化月間以外にも役職員による巡回パトロールを実施し、作業現場での声掛け、指導を強化する。

②事故防止対策

会員同士の健康チェックや作業開始前の安全確認の徹底を図る。

事故の原因究明 → 改善（対策） → 検証を徹底する。

③研修会・講習会の開催

安全就業には「健康であることが第一」であるため、健康状態の確認や健康づくり講演会を開催するなど啓発に努める。

事故者講習会や草刈機の使用時の飛石事故防止策についての講習会を開催し、会員の意識を高める。

年度別事故発生件数（件）

年度	傷 害		賠 償		計
		うち入院		うち草刈機事故	
令和元年度	0	0	1	1	1
令和2年度	2	1	1	1	3
令和3年度	0	0	1	1	1
令和4年度	1	0	0	0	1
令和5年度	2	1	2	1	4

(1) 現状

当センターは設立以来、地域の高齢者に「就業の場」を提供し、経済的な自立と社会参加を促進し、国・地方公共団体、民間企業、一般家庭から仕事を受注し、高齢者の日常生活支援や育児サービス分野、中小企業等の人手不足分野の下支えに努めるなど、公益法人として健全かつ貢献的に事業運営を行っている。

しかし、令和5年10月1日から、「適格請求書等保存方式（インボイス制度）」が導入された。配分金は消費税が含まれた金額となっており、これまでどおり課税売上1千万円までは申告不要だが、センターとしては会員との取引について、消費税の仕入税額控除が認められなくなる。このため新たな経費負担（納税額）が発生し、センターの財政を圧迫し厳しい経営になることが予想される。

こうしたことから、令和5年4月1日より12年ぶりに事務費率を9%から15%へ改定し運営基盤の強化に努めているが、物価の高騰等先行きが不透明である。

また、令和6年秋に施行されるフリーランス法に対応するため、契約の見直し等を検討する必要がある。

(2) 課題

①財源の確保：財政の安定的な運営を維持するためには、十分な財源の確保が必要である。

しかし、会員数減による補助金の格付け降格やインボイス制度の新たな税負担などに対応するため、将来的な財源確保に課題を抱えている。

②施設や設備の維持・改善：センターの施設や設備の維持改善には財政的な負担がかかる。老朽化した施設の更新や新しい設備の導入に必要な予算の確保が課題となる。

(3) 目標設定

①事務処理のデジタル環境を整備し、事務コスト（郵送費・その他の諸経費）の抑制を行い、年間予算の安定的な確保を目指す。

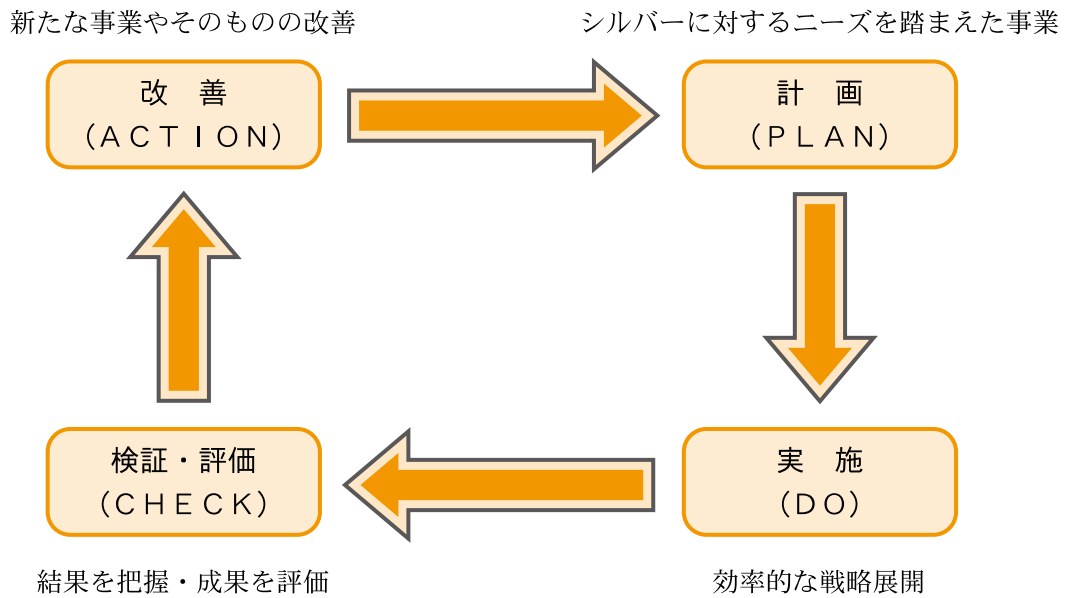
(4) 目標達成の方策

①業務のデジタル化の推進：フリーランス法及び契約の見直しに対応するため、デジタル技術や情報システムを導入し、業務プロセスの効率化を図る。顧客情報の管理、会員と発注者のマッチング、スケジュール管理などをスムーズに行うことで、運営全体の効率が向上する。

②ネットワークの強化：阿南市、地域の福祉団体、企業、非営利団体などとの連携を強化する。需要と供給のマッチングや情報共有を行い、利用者に適切なサービスを提供する。

③持続的な補助金確保に努める。

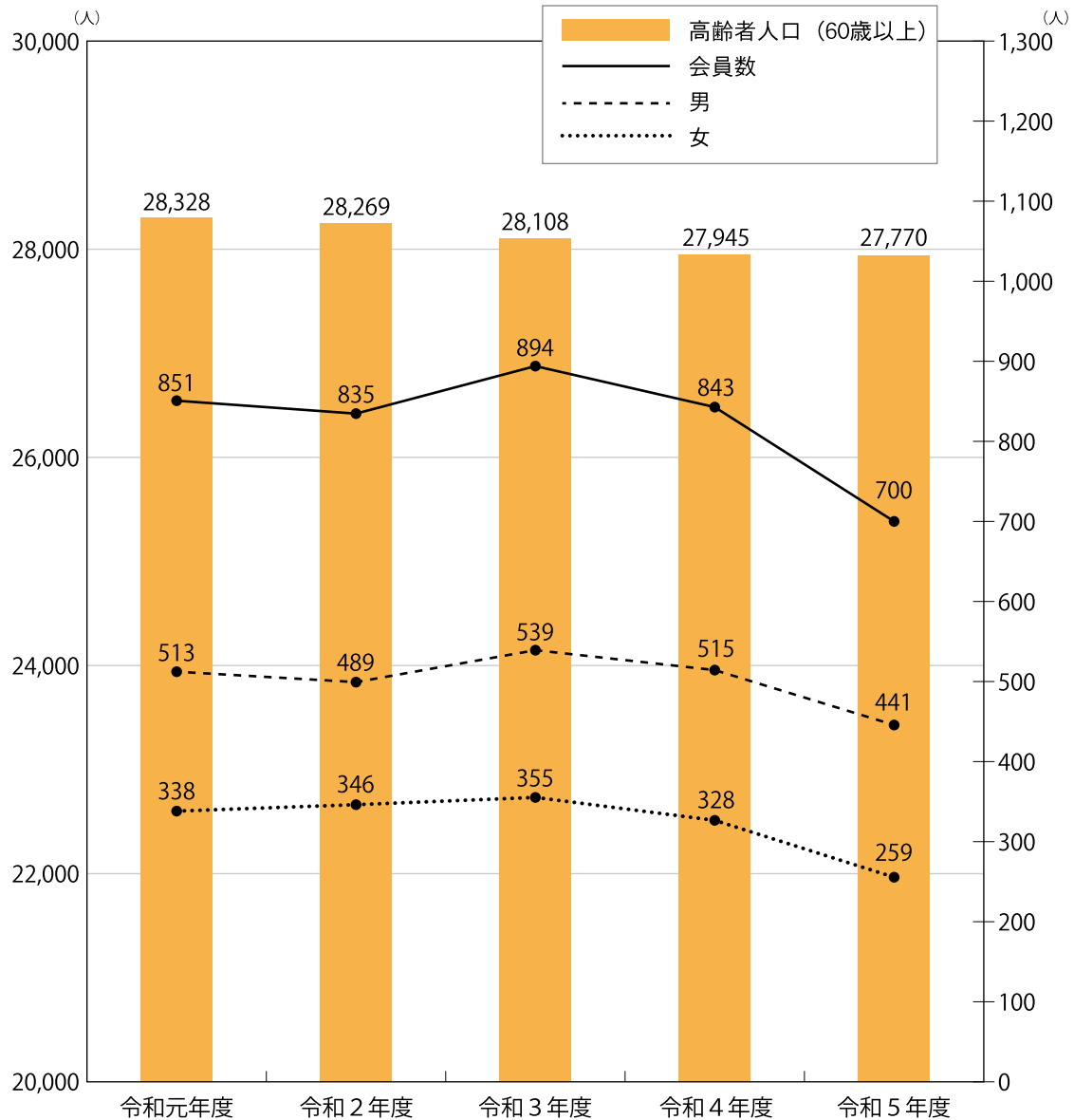
IV 計画の進行管理・評価 (マネジメントサイクル)



V 資料

1 高齢者人口（阿南市）と会員数の推移

区 分		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
会員数	男	513	489	539	515	441
	女	338	346	355	328	259
	計	851	835	894	843	700
60歳以上		28,328	28,269	28,108	27,945	27,770
入会率		3.00%	2.95%	3.18%	3.02%	2.52%

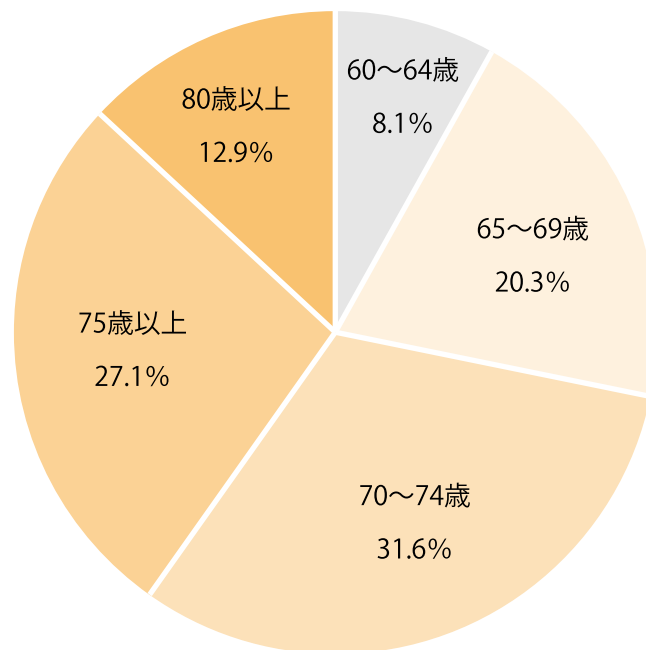


2

會員年齡別構成比表

令和6年3月31日現在

	男 性	女 性	合 計	構 成 比
60歳未満	0	0	0	0.0%
60～64歳	46	11	57	8.1%
65～69歳	91	51	142	20.3%
70～74歳	140	81	221	31.6%
75歳以上	114	76	190	27.1%
80歳以上	50	40	90	12.9%
合 計	441	259	700	



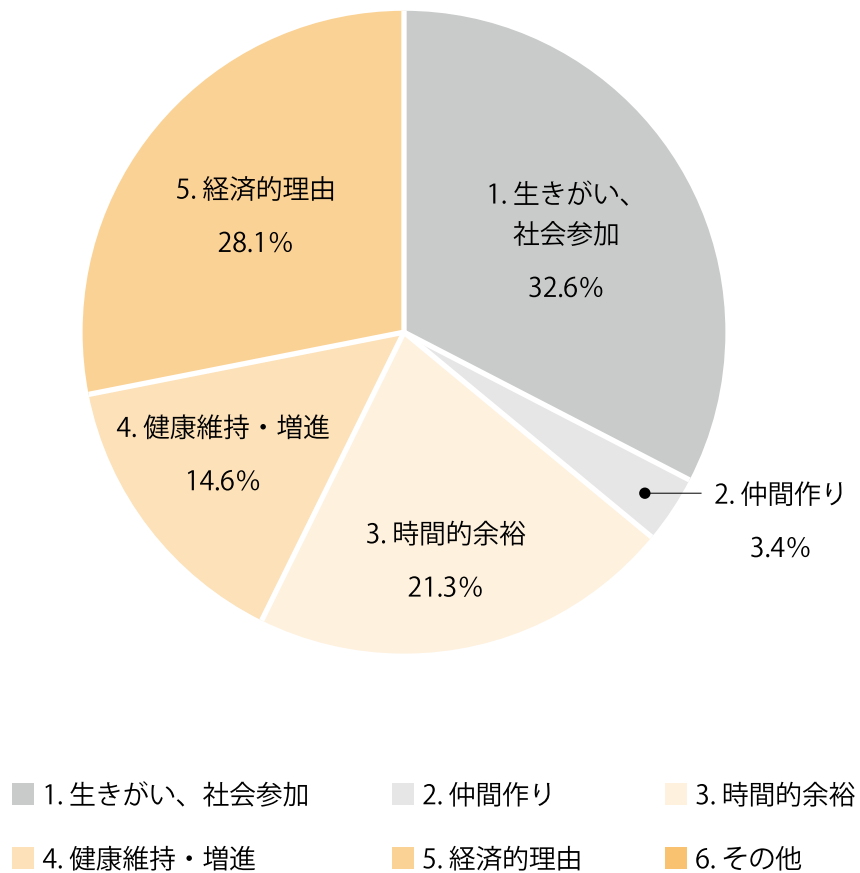
60歳未満
 60～64歳
 65～69歳
 70～74歳
 75歳以上
 80歳以上

3

会員入会動機

令和6年3月31日現在

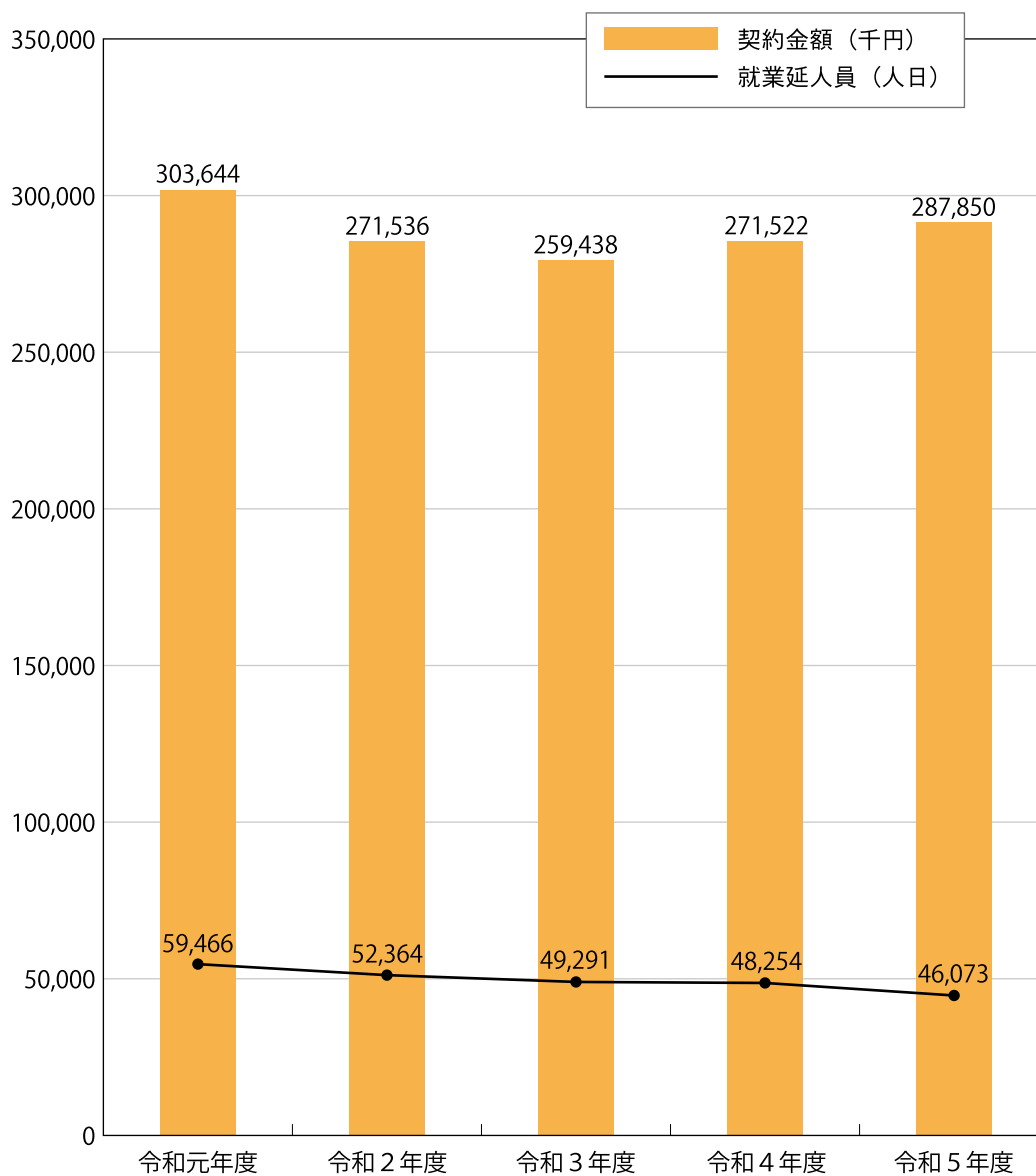
(合計)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計	割合
1. 生きがい、社会参加	8	3	1	2	2	4	3	2	1	0	1	2	29	32.6%
2. 仲間作り	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	3	3.4%
3. 時間的余裕	4	3	1	0	3	0	3	3	0	1	0	1	19	21.3%
4. 健康維持・増進	2	2	4	2	0	0	2	1	0	0	0	0	13	14.6%
5. 経済的理由	8	2	3	1	0	1	1	4	1	4	0	0	25	28.1%
6. その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
合 計	22	10	9	6	6	6	9	10	2	5	1	3	89	



4

請負事業の契約金額と延人員の推移

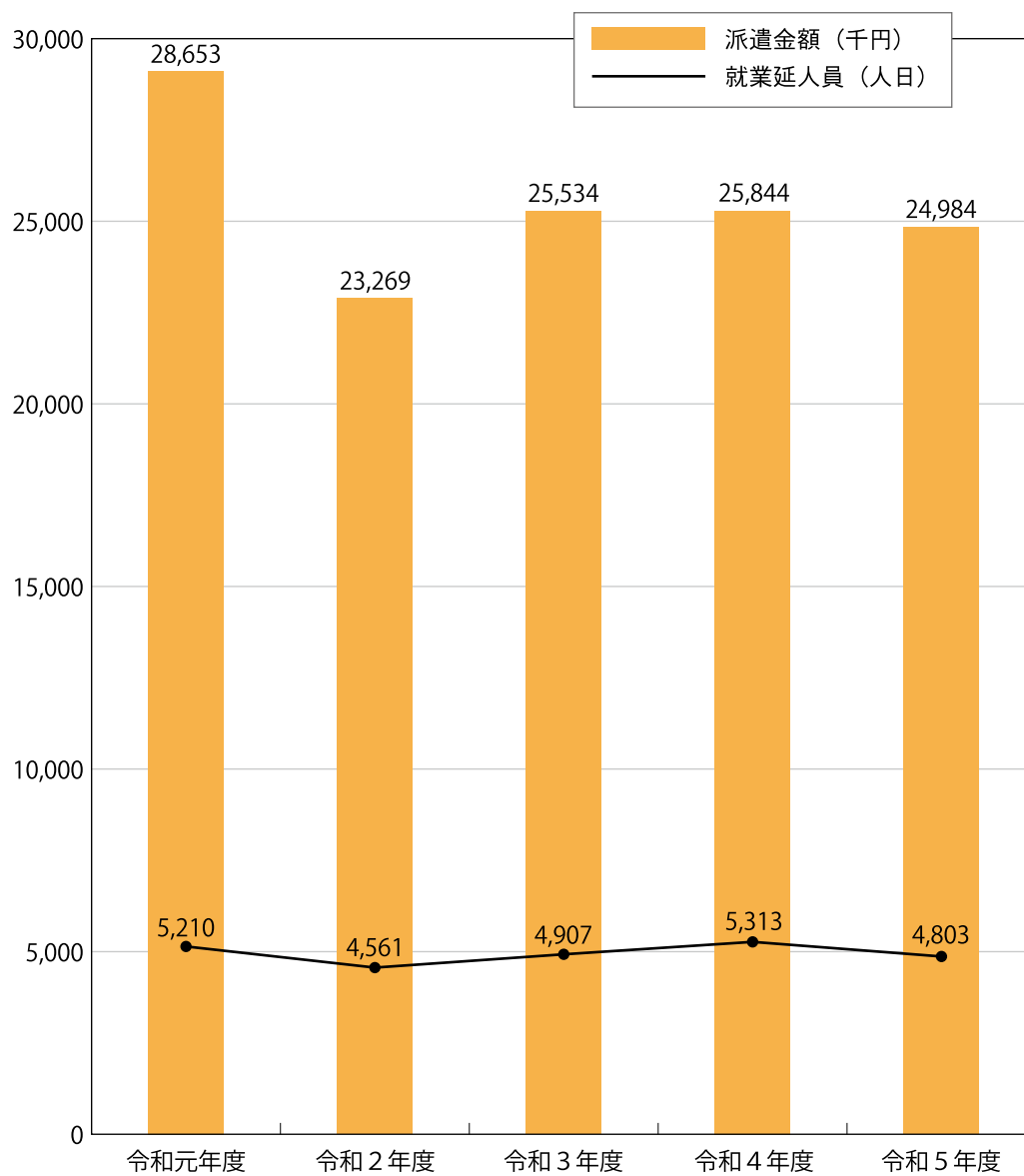
年 度	契約金額 (千円)	就業延人員 (人日)
令和元年度	303,644	59,466
令和2年度	271,536	52,364
令和3年度	259,438	49,291
令和4年度	271,522	48,254
令和5年度	287,850	46,073



5

派遣事業の契約金額と延人員の推移

年 度	契約金額 (千円)	就業延人員 (人日)
令和元年度	28,653	5,210
令和2年度	23,269	4,561
令和3年度	25,534	4,907
令和4年度	25,844	5,313
令和5年度	24,984	4,803



6

総務・財政委員会名簿

区分	氏名	備考
委員長	原 務	副理事長
副委員長	阿 部 里 司	理事
委 員	井 坂 稔	理事（組織委員長）
”	大 津 行 春	理事（就業開拓・普及啓発委員長）
”	川 田 実	理事
”	豊 田 弘 之	理事
”	中 西 康 富	理事（安全・適正就業委員長）
”	吉 岡 泰 香	理事
”	西 尾 和 洋	常務理事



区 分	備 考
昭和61年11月29日	「社団法人阿南広域シルバー人材センター」 設立総会
昭和62年 3月26日	「社団法人阿南広域シルバー人材センター」 法人登記
昭和62年 4月 1日	新規職員6名採用・羽ノ浦、那賀川出張所に各1名配置 (本所：旧スポーツセンター2階)
昭和63年11月 1日	会報「シルバーあなん」創刊号発行
平成 3年 5月27日	設立5周年記念式典開催
平成 8年 5月30日	設立10周年記念式典開催
平成13年 5月31日	設立15周年記念式典開催
平成18年 6月15日	「社団法人阿南市シルバー人材センター」 名称変更
平成18年11月19日	設立20周年記念式典開催
平成19年 3月	中・長期計画策定（平成19年度～平成28年度）
平成21年 3月31日	那賀川・羽ノ浦出張所廃止
平成23年 4月 1日	「公益社団法人阿南市シルバー人材センター」 名称変更
平成28年11月26日	設立30周年記念式典開催
平成31年 3月	第2次中期計画策定（令和元年度～令和5年度）
令和 2年 2月25日	事務所移転（阿南警察署東隣）
令和 6年 3月	第3次中期計画策定（令和6年度～令和10年度）